



小学生が中学教員から授業を受ける「連携教室」など 小中一貫教育のさまざまな取組を発表 ～ねりま小中一貫教育フォーラムを開催～

と き 平成27年1月23日(金) 午後1時45分～4時

と ころ 練馬文化センター 小ホール (練馬1-17-37)

23日(金) 練馬文化センター(練馬1丁目)で、今後の小中一貫教育の進め方を考える「ねりま小中一貫教育フォーラム」が開催された。主催は区教育委員会。

フォーラムの第一部では、それぞれの学校の状況に応じた取組を発表。豊玉第二中学校(豊玉北2丁目)は、区内で初めて整備した「連携教室」を活用し、近隣小学生が中学教員から授業を受ける取組などを紹介した。

このほか、小中一貫教育を進めている8組23校の小・中学校が、成果と課題を発表した。

第二部では、学識経験者4名によるシンポジウムが行われ、小中一貫教育の評価方法や小中一貫教育を推進する教員の育成などについて活発な意見交換が行われた。



【フォーラム発表の様子】

【小中一貫教育の取り組み内容】

豊玉第二中学校(豊玉北2-24-5)・豊玉第二小学校(豊玉上2-16-1)・豊玉東小学校(豊玉北1-16-1)

豊玉第二中学校には、校舎の改築に伴い、小中一貫教育のために区内初となる「連携教室」が整備された。「連携教室」は、小学生が定期的に中学校舎で中学校教員から授業を受け、また、同じ中学校に進学する小学校同士が合同で授業を行うための教室で、4教室分の広さがある。小学生のための給食設備も整備されている。「連携教室」での取組を充実させるため、3校で全教科の合同教科部会を立ち上げ、小・中学校の教員と一緒に指導案を作成した。

小中一貫教育校大泉桜学園(大泉学園町9-2-1)

大泉桜学園では、9年間を 期(1～4年)・ 期(5～7年)・ 期(8・9年)に区切り、5年生から7～9年生(中学生)と同じ校舎で学び、50分授業や定期テストを取り入れている。 期・ 期・ 期の最高学年である4年生や7年生がリーダーとして活躍する様子や、9年生が学校全体のリーダーとして下級生を思いやる様子などを紹介した。「中1ギャップ」を解消するために、段差を取り除くのではなく、段差を乗り越える力がつくよう子どもたちに役割を与えることで、成長を促している。

南が丘中学校(南田中4-8-23)・南が丘小学校(南田中2-13-1)・南田中小学校(南田中5-15-37)

小・中学校教員の相互協力による授業改善を取組の柱にすえ、互いの専門性を活かして、授業1単位時間の指導内容の質の向上をめざした。算数・数学や理科のカリキュラムでは、子どもたちがつまずきやすい学習項目についてスパイラル的に学習を繰り返すなど、小・中学校が連携して、子どもたちの学力向上に向けた具体的な工夫を取り入れた。

【シンポジウム「さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方を考える」】

文教大学教育学部の葉養正明教授、大妻女子大学教職員総合支援センター所長の酒井朗教授など4名をシンポジストに迎え、さまざまな状況に応じた小中一貫教育の進め方について活発な意見交換が行われた。

【問い合わせ】教育振興部 教育企画課 新しい学校づくり担当係 電話03-5984-1034